

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094900042		
法人名	有限会社 オアシスの会サポートセンター		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	〒807-0133 福岡県遠賀郡芦屋町大字芦屋1233-3 TEL 093-222-1117		
自己評価作成日	令和04年01月17日	評価結果確定日	令和04年03月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様各々の症状に合わせたサービスを提供する。環境整備には特に気を配り落ち着いた環境で生活が送れるようにする。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和04年02月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然環境に恵まれた「オアシス」は、地域密着型事業所として、8年前に開設した定員9名のグループホームである。家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりのペースでゆったりと生活出来る支援に取り組む、季節の花見やドライブ、地域のイベントに積極的に出かけ、利用者の気分転換を図っているが、コロナ禍の中で現在は自粛している。協力医療機関医師の定期往診と訪問看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整っている。利用者が楽しみにしている食事は、旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供し、さつまいもを蒸かしたりぜんざいを作って、食を楽しめるよう支援している。ベテラン職員が多く「どんなに大変な利用者も断らない」という代表の介護に対する熱い思いを、職員一人ひとりが理解して、利用者に寄り添い優しく話しかけ、利用者が元気で明るい笑顔を取り戻す様子を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている、グループホーム「オアシス」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・事業所内に掲示ミーティング時に唱和する。 	基本理念「共に歩み、共に笑い」を見やすい場所に掲示し、毎月の職員ミーティング時に職員全員で唱和して、理念の意義や目的を理解している。職員は、利用者一人ひとりと向き合い、生活習慣や体調に合わせてゆったりと生活できるように支援し、利用者の生きがいに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・近年新型コロナウイルスの関係上地域の行事は開催されてないが 廃品回収など定期的に行われてる行事には参加 	区長を始め地域の方から、地域の行事や活動、イベントへの誘いを受けて、尾籠、夏祭り、廃品回収等、参加できそうな行事には積極的に参加して交流を深めていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・施設見学に来られた際などにお話しさせて頂く。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている 1回/2か月 開催し意見交換を行い、情報、意向を知ると共にサービスの向上に努めている。	コロナ対策以前は、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、区長、副区長、民生・児童委員、行政職員、家族代表の参加を得ていた。ホーム運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、事故等の報告を書面で行い、議事録を委員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている 必要時に連携、助言を受けている	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を報告し、意見交換を行い協力関係を築いている。管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政窓口で電話やメールで報告し、疑問点、困難事例を相談する等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている 拘束委員会、職員の勉強会を行い周知徹底を行っている。危険のないように見守り強化に努めている。	職員会議の中で、身体拘束について学ぶ機会を設け、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証を行い、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。運営推進会議の中で、身体拘束委員会からの報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている 勉強会を行い周知徹底を図る。何が虐待にあたるか知ることで虐待防止を図ることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・出来ている 研修に参加したりすることで学び、必要時には制度を利用する。	権利擁護の制度について、外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員一人ひとりの周知を図っている。制度に関するパンフレットや資料を用意し、必要時には、制度の内容や申請手続きについて説明を行い、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。現在、制度活用の利用者がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・出来ている 契約時、改定時には重要事項を元に説明。理解、納得を得たうえで署名・捺印を頂く。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・出来ている 運営推進会議に参加して頂いたり、面会時にも聞き取り支援に反映させている。	ホームの日常会話の中から、職員は利用者の意見や要望の把握に努めている。家族面会時や運営推進会議に参加の時に、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で話し合い、出来る事から速やかにホーム運営や利用者の介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・出来ている 毎月行っているミーティングで意見、要望を聞き取り改善を行っている。	職員ミーティングを月1回開催し、利用者一人ひとりの小さな変化や気付きを話し合い、家族や主治医と今後の介護方針を検討し、事故、ヒヤリハットの振り返りも行っている。また、運営や業務についての意見や提案が活発に出され、それらの意見をできるだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・出来ている 資格、勤続年数等で給料面を考慮したり個々にあった勤務体制にて継続して勤務できる環境作りに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・出来ている 採用の際には、年齢、資格にとらわれず、個人の能力にて採用する。	職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。代表や管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所への役割分担や、それぞれの事情を汲んだ勤務時間に配慮して、働きやすい職場環境を整え職員が定着している落ち着いたある事業所である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・出来ている 職員間で情報を共有し入居者様がその人らしい尊厳ある暮らしが送れるように取り組んでいる。	職員会議の中で、利用者の人権を守る介護サービスについて常に話し合い、意識づけを行っている。職員一人ひとりが、利用者の個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して自由に暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・出来ている 研修に参加していただき向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・出来ている 関連事業者と交流を図り向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・出来ている 本人の思いを聞き取り早く施設生活に馴染んでもらえる様に声掛けを行い、馴染の関係を早く築けるように務めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・出来ている 家族の思いを受け止め連絡を取りながら良い関係が築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・出来ている 本人家族の訴えを聞き取り必要性の高い要望からサービスの提供を順に行っていくように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来ている 本人の体調、能力に応じて無理のない範囲で生活動作を一緒に行っていく		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・出来ている 職員、家族がお互いに協力しながら本人に対しより良いサービスが提供できるように小さな事でも情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・出来ている 電話は取り次ぎ、面会に関しては可能な範囲で行っている。	利用者の家族、親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛いで話せる場所やお茶を提供し、また来てもらえるよう、声をかけているが、コロナ禍の中で現在は自粛している。また、ホームで一緒に過ごす利用者同士、利用者と職員もコミュニケーションを取りながら馴染みの関係となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・出来ている 皆で過ごせる空間を作り自由に利用して頂く。またなるべくみんなで過ごせる時間を増やす為に、みんなでテレビをみたりレクリエーション、家事リハビリを取り入れている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・出来ている お会いした際には近況報告を伺ったり必要時には相談アドバイスを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来ている 日頃の会話から聞き取ったり担当者会議開始時に意向の確認、検討を行っている。	利用者の生活歴や環境、習慣、嗜好等を入居時に聴き取り、アセスメントに記録して職員間で情報を共有し、日々の介護サービスに反映させている。また、意向表出が困難な利用者には、家族に相談しながら、職員が利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来ている 本人、家族、在宅生活時のサービス提供事業所等からも聞き取りを行い把握に努めている。入所後も会話の折に聞き入れた事案に関し職員一同で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・出来ている 介護記録やミーティングで問題提起してもらい意見交換を行いながら個人個人の状況把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・出来ている ミーティング、担当者会議等で意見交換し反映させている。	担当職員は、利用者や家族と話し合う機会を設け、意見や要望、心配な事等を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画を都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・出来ている ミーティングにて全スタッフで情報の共有を行い実施、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・出来ている その時々希望に応じて、情報を提供し支援できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・出来ている 地域資源を活用し幅を広げられるように支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	・出来ている 本人、家族の希望を重視し希望の意思による治療を受けたり、連携医療機関の定期的な往診を受け、連携を図り、指導、助言を受けている。	入居時に、利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決めている。協力医療機関医師による月2回の往診と緊急時の対応、病院看護師、訪問看護師、薬剤師、介護職員の連携で、24時間安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・出来ている 往診時の看護師や訪問看護師と密に連絡し身体状況を把握し適切な助言を頂き支援を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・出来ている 入院先へフェイスシートやアセスメント等の情報提供し連携を図っている。カンファレンスにも参加し退院後の生活指導などの助言も頂いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・出来ている 契約時に十分な説明の元、同意を得た際には署名、捺印を頂く。また、必要時にその都度本人、家族と話し合いを行いながら支援している。	契約時に利用者や家族に、重度化に向けたホームの方針を説明し、承諾を得ている。重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を決定し関係者で共有して、利用者が安心して終末期を過ごすことのできる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・出来ている 勉強会を行い知識の向上に努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・出来ている 避難訓練を定期的実施し慌てず誘導できるように訓練を重ねている。地域とも避難先等協力体制を取っている。	防災訓練を年2回、昼夜を想定して実施し、1回は消防署の参加を得ている。通報装置や消火器の使い方を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、非常食や飲料水、非常用備品を用意し、非常災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・出来ている 日常も職員同士お互いを注意しあいながら対応している。	利用者のプライバシーが損なわれていないかを、職員会議やカンファレンスの中で振り返り、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務について代表が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来ている 本人が自己決定できる部分に関しては自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来ている 本人が希望することはできる限り優先した支援を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出来ている なるべく本人の好みを優先するようにしている。定期的に訪問理美容も利用してもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来ている 残存能力にあわせてともに行う。	利用者の楽しい食事は、旬の食材を使って職員が交代で作る、美味しい料理を提供している。職員が家で取れたさつまいもを持ってきて蒸かして食べたり、ゼンざいを作る等、利用者の笑顔に繋がる支援に取り組んでいる。また、外食にもよく出かけ、普段食べられないものを食べる機会を大切にしていたが、コロナ禍で現在は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・出来ている 全員が同じでなく個別に合わせて、量、形状等変えて提供する。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・出来ている 毎食後の口腔ケアを行い、本人が上手く出来ない所は支援している。定期的に訪問歯科に診て頂き治療、ケア行い指導、援助を頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来ている 危険のない範囲で出来るだけトイレを利用し排泄を行って頂く。尿意、便意のない方は排泄パターンを見ながら声掛け誘導を行う。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるように支援している。また、夜間のオムツやパットの使用方法については、職員間で対応を話し合いながら工夫を重ね、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・出来ている 便秘が体に及ぼす影響を知り食事の工夫や運動を取り入れている。また、主治医に相談し個々に応じたアドバイスを頂き対応する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・出来ている 週3回の入浴を実施。体調や本人の希望に応じて臨機応変に対応している。	入浴は、利用者の希望や体調に合わせ、週3回の支援を基本としているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、難しい場合は無理強いせず、清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・出来ている 本人の意思、状況に応じて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・出来ている 個々の薬のことについて、医師、薬剤師と連携を図り、申し送り、ミーティングなどで確認する。体調の変化はその都度医師に報告し支持を頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来ている 個々の能力に合わせたレクリエーションや、出来ることを一緒にいき毎日の生活を楽しくしてもらう。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・出来ている コロナの関係もあり外出の機会は減ってはいるが気候のよいときは近所を散歩したり敷地内の屋外で過ごしていただいたりしている。	コロナ対策以前は、近場で楽しめる場所が多い地の利を生かし、航空ショーや芦屋砂の祭典、山笠や花火大会の見学に出かけたり、季節の花見、外食や買い物等、積極的に外出の支援に取り組むことで気分転換を図り、利用者の笑顔に繋がっていたが、現在は自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・出来ている 預り金の中で希望の物を購入したりして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・出来ている 自由に連絡が取れる環境を作っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来ている 共用の空間ではみんなが気持ちよく過ごせる環境を作り、季節感を感じられる飾りつけなど工夫をしている。	利用者一人ひとりに合わせて、テーブルや椅子の配置を決めて、それぞれが心地よく過ごせるよう配慮している。職員手作りの作品や季節の飾り物で家庭的な雰囲気演出し、笑い声の溢れる楽しい共用空間である。また、朝夕の掃除を徹底して行い、臭いがなく清潔で気持ちよく過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・出来ている テーブルの配置など工夫し、それぞれがゆっくり過ごせる居場所を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来ている 馴染みの物や、本人の使いやすい物をもって来て頂き心地よい空間作りを心がけている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの筆筒や椅子、机等を持ち込んで配置し、自宅と違和感のないように配慮して、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境整備に取り組んでいる。また、エアコンや介護用ベッドが備え付けで安全に配慮し、居室の換気、清掃に気を配り、居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・出来ている 個々の残存能力を活かし自立した生活が送れるように支援している。		